

九州合研 50 周年記念企画:つながいを大切に…リレートーク No.6

コロナ禍の保育 ～今、保育園で～

発信：九州合研常任委員会 2021.8.18



1. 園の概要

菊陽ぼっぼ保育園は社会医療法人芳和会の地域型事業所保育所です。定員 40 名の小さな保育所で 0 歳児～就学前までの子ども達が過ごしています。0～1 歳児クラス「めだか組」1～2 歳児クラス「いるか組」3～5 歳児クラス「くじら組」の 3 つクラスがあります。保護者のほとんどが病院で働いており、地域の方が今年は 3 世帯利用されています。

2. 院内保育所のコロナ禍の保育所職員

院内保育所ということで、コロナ禍でなくても、感染症対策として感染症が流行する時期は保護者も保育者もマスクをつけることが多く、子どもたちがマスクに慣れていました。アルコール消毒やマスクも医療機関という事で品薄時も何とか利用できたのは本当にありがたかったです。こんなに長い期間、1 年半もマスクの生活が続くとは思っていませんでしたが・・・。

日々の生活では「自分が感染源になってはいけない」という緊張感が強く、もし感染したら保育園の子どもや職員だけでなく、病院の運営に直結する為、絶対に自分自身感染できないと感じていました。病院からも職員にも里帰りや県外からの帰省を自粛と通達が出たり、保育所の雰囲気もピリピリした時期もありました。院内保育所の保育士は医療関係者枠でコロナワクチン接種もでき、子どもたちも毎日密に接している保育者として、職員みんなで少しほっとしました。



3. 保育で工夫したこと

昨年 4 月緊急事態宣言が出たときには、全クラスで集まることはやめ、リズムも各クラスで行うなど対応していました。しかし、リズムは大きい子を見て憧れ育つ、大きい子も小さい子に見てもらう事で張り切り、自信がつくことが大きい……。子どもの育ちと感染防止の狭間で悩みました。職員間で話し合い、緊急事態宣言やリスクレベルが低い時には、窓を全開にしてシーリングファンを回して喚起を十分にし、行うことにしました。

そして天気の良い日は毎日散歩に出かけています。保育園の周りは畑に囲まれ、しょうゆ工場や空調機器の工場などがあり民家は周りにありません。人に会うこともほとんどないので、コロナ禍に気を遣うこともありません。また、病院の敷地も広く野イチゴ、サクランボ、梅、ピワ、キンカンなど一年を通しておいしい物を収穫し味わいました。虫探しも一年中楽しみ採取したり、飼育をしたり楽しんでいきます。他にも塀のぼり、木登りなど敷地内も外もお散歩スポットもたくさんあります。散歩ができる当たり前の環境がコロナ禍で改めて、とてもありがたいと感じました。

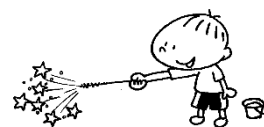
給食はとても味気ないのですが、向き合っの食事はやめ、グループで一方方向で食べています。子どもたちは楽しく食べ、おしゃべりしますが、そこまでは注意は出来ません・・・(保育者も休憩を職員

休憩室と事務所、ホール分け、一部屋 2 人ずつで食べるようにしています。) 手洗いが大好きな 1, 2 歳児は永遠にハンドソープで泡立て手を洗い、手洗いがすっかり上手になりました(笑) その他保育の中では、換気とアルコール消毒など保育士が行う仕事は増えましたが、園の全体の人数もクラスの数も少ないのであまり制限はしていませんでした。改めて、小さい保育園の良い点だと思いました。

4. 行事について

クラス懇談会を年に 3 回ほど行っていました。会を開くことが出来ないため日々の保育を写真で張り出し、保護者に伝えています。保育園での様子や連絡ノートに書いてある遊びの様子がわかると好評です。普段から毎日の連絡ノートや迎時に細やかにコミュニケーションをとるよう心がけています。

大きな行事として、昨年の「発表会」は室内で行うため、クラス入れ替え制で行いました。病院が会議などで目安にしている(平米数÷6=収容人数)を参考にしました。保護者との「夕涼み会」は夕方から、子どもたちが出し物をしたり、保護者と一緒に七夕そうめんを食べて交流するのですが、熊本県のリスクレベルが上がったため中止。その代わりに、日中行った七夕会を動画で保護者に送りました。「年中年長の合同お泊り保育」も昨年は熊本県のレベルが上がった為縮小し、姉妹園との合同もやめ日中のみのお楽しみ保育にしました。今年は、「泊まらない 20 時までのお楽しみ保育」に変更。姉妹園と合同で(合計 10 人)手作りいかだあそびを楽しみ、ヤマメのつかみ取り、バーベキュー、花火と楽しみました。それから、卒園児を対象とした「小 5、中 1 同窓会」を 8 月に行いますが、昨年に引き続き中止しました。運動会は屋外で 25 世帯と世帯数も少ないので、園児のプログラムは行い、卒園児や、保護者、祖父母のプログラムは中止し、お弁当無しで午前中のみで行う予定です。



5. コロナ禍でも大切にしたいこと

「三蜜は避けて」とはいつても、保育は子どもにとってスキンシップは大事で、子ども同士のじゃれ合いも子どもの育ちにはかけがえのないものです。ただ、今流行し始めているデルタ株は子どもも感染しやすく感染力も水痘なみという見解もあり、子どもの育ちと感染防止の狭間で悩むところです。手洗い、マスク、消毒、感染防止(日常生活で感染しないよう気を付ける)をしつつ、それでも、今を生きる子どもたちと、毎日の保育、遊びを工夫しながら行っていきたいと思います。



熊本県 菊陽ぽっぽ保育園 川上隆子

☆ リレートーク、次は佐賀県からです!! ☆